

『《JJN ブックス》絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム(第3版)』正誤表

このたびは『《JJN ブックス》絵でみる脳と神経 しくみと障害のメカニズム(第3版)』をご購入いただきありがとうございます。本書第4刷(2011年9月1日発行)に以下の誤りがありました。ここに訂正させていただきますとともに、深くお詫びいたします。

2012年3月現在

訂正箇所	誤	正
165頁・左段・ 下から5行目	滑車神経の働きは、眼球を <u>下外側</u> に動かすことです。	滑車神経の働きは、眼球を <u>下内側</u> に動かすことです。
166頁・図7	欄外をご参照ください。下線部分が訂正箇所です。	
167頁・ [NOTE-6]	したがって、上斜筋は眼球を <u>下方</u> 、 <u>外側</u> に向け、 <u>内側に回旋</u> させる。また、下斜筋は眼球を <u>上方</u> 、 <u>外側</u> に向け、 <u>外側に回旋</u> させる。	したがって、上斜筋は眼球を <u>下転</u> (副次的には <u>内旋</u> 、 <u>外転</u> )させる。また、下斜筋は眼球を <u>上転</u> (副次的には <u>外旋</u> 、 <u>外転</u> )させる。
167頁・左段・ 16-22行目	<ul style="list-style-type: none"> <li>内直筋、上直筋、下直筋、下斜筋が麻痺するため、それぞれ内側、<u>上内側</u>、<u>下内側</u>、<u>上外側</u>を注視できません。まっすぐ正面を見させると、麻痺側眼球はやや外側に偏ります。</li> <li>この時、例えば内直筋の単独麻痺では内側を注視した時、<u>上直筋では上内側</u>を注視した時、<u>下直筋では下内側</u>を注視した時、さらに<u>下斜筋では外側上方</u>を注視した時に、複視が最も顕著に現われます(図7)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>内直筋、上直筋、下直筋、下斜筋が麻痺するため、それぞれ内側、<u>上外側</u>、<u>下外側</u>、<u>上内側</u>を注視できません。まっすぐ正面を見させると、麻痺側眼球はやや外側に偏ります。</li> <li>この時、例えば内直筋の単独麻痺では内側を注視した時、<u>上直筋では上外側</u>を注視した時、<u>下直筋では下外側</u>を注視した時、さらに<u>下斜筋では内側上方</u>を注視した時に、複視が最も顕著に現われます(図7)。</li> </ul>
168頁・左段・ 2行目	<ul style="list-style-type: none"> <li>上斜筋が麻痺するために、麻痺側眼球は<u>外側下方</u>を注視できません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上斜筋が麻痺するために、麻痺側眼球は<u>内側下方</u>を注視できません。</li> </ul>

